

臺灣及澎湖島觀察意見  
書附測量事業ニ関スル  
件



軍令部

經理局長

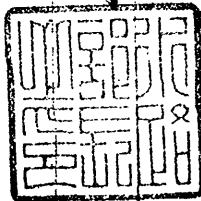
水第八一五號

其臺灣及澎湖列島觀察ノ結果ニ付上申

本職儀去ル五月其臺灣澎湖島及韓國へ出張ヲ命セラレ  
同月二十七日發京八月十日歸京候處該海岸視察ノ結  
果ニ依リ先ツ其臺灣及澎湖列島ノ測量ニ関スル今後着手ノ  
順序ニ付別紙意見見書ノ通實行致度覺悟ニ有之候就  
テハ若シ御豫定ノ計畫等アリテ自然支悟致シ候場合ニ豫  
メ何分ノ御沙汰相成候様仕度此段上申仕候也

明治三十一年十月八日

水路部長肝付兼行



海軍大臣候爵西郷從道殿

本件  
成度

明治三十

望云

ナカラストト

又燈臺

ト第五トハ

區ノ分ヲ先

碇

本上申

豫就 結

本分 碓 區 第 又 方 望

本件ハ御決定ノ時  
度候 相 付 相

經理局

0100

外  
以

豫就

上申ヲ按スルニ測量着手順序中第四區、  
ハ海岸陸高ク水深キカ故ニ航海ニ容易ナリ  
泊場所其他ノ點ヨリ觀察スルモ寧ロ第五  
區ノ分ヲ先ニ着手スルニ必要ヲ認ム依テ第四  
ト第五トハ彼是ニ着手ヲ前後セラレシコトヲ望ム  
又燈臺、築港ニ関スルコトハ参考上裨益尠  
ナラストト存候系臺灣總督、移サレシコトヲ  
望ム

明治三十五年十月廿五日 軍務局

0101

成米

明治政府の

下本上申書中ノ件ハ大体於テ至極ニ意ニ付実行  
シテ取斗シ度矣

軍令部長



0102

追テ韓國ニ関スル意見ハ調査ニ今年測量ノ結果ヲ要シ候  
ニ付軍艦筑波歸朝ノ上ニテ差出シ可申此段副申候也

臺灣及澎湖列島全部測量着手ノ順序及

其航海ノ保安等ニ関スル意見

臺灣及澎湖列島ノ沿海タル風濤ノ障碍、水路ノ險惡、舟泊ノ不便、及沿岸形状ノ測量施設ニ不利ナル從來ノ經驗ニ徴シテ其比ヲ見サル所ニ有之元來支那沿海ハ英國ノ軍事貿易ニ大關係アルヨリ英國ニ於テ夙ニ適度ノ測量ヲ了ヘテ現ニ殆ト其全部圖誌ノ刊行アルニ拘ハラス其甚關係多キ要地タル臺灣沿海ノ獨リ畧測或來測ノ儘今日迄放棄サレタリハ實ニ前陳ノ理由ニ外ナラスト被考候然レニ今ヤ該海區ハ我新領土トナリ其發達上一日モ早ク水路測量ノ完成ヲ要スルハ當然ノ事ナルモ其海區ノ狹小ナラサルヨリ自カラ地方ニ依リテ緩急ノ別アリ故ニ今

第一 各地水路ノ險不險



## 第二 軍事上ノ關係

### 第三 産業及運輸上ノ關係

### 第四 我精測及外國ノ畧測既成ノ程度

此ノ四件ニ注意着眼シテ今回親シク實視シタル所ト責任アル各實驗者ノ説ク所トニ察シ以テ測量施行ノ難易ト既成測量ノ効果ノ大小トニ考ヘ各地今後着手順序ヲ別紙圖上ニ藍色ヲ以テ畫記シタル如ク第一ヨリ第八ニ區分豫定致シ尚各區逐次ニ項ヲ分々之カ説明ヲ付ス

但圖中紅色ヲ以テ深メタル部分ハ我精測ヲ經タル處トス

### 第一着手區畫

澎湖島ノ南面澎湖水道ノ中央ヲ東界トシ南方東島及戎克島ニ至リ西方半坪島ニ至ル海區

説明 現今ノ我未測區域中海底ノ險惡ニ於テハ第一ニ屈指スヘ

キノ地ナルト軍事上ニ於テ最要地ト考慮セラシ又臺灣西岸ノ航海ニ於テ艦船ノ繫泊避泊ニ唯一ノ安全地ナル所ノ澎湖港ノ出入ニ必經ノ水路ニ當リ而シテ澎湖列島ノ最北及最南東ノ小嶼タル北島並三島ハ燈臺、三島ノ南東方及北東方ニ遠在セシ九呎礁並クルルベリ岩ハ浮標若クハ立標ノ急設ヲ要スル海區タルニ據ル

## 第二着手區畫

布袋鎮灣ヲ中心トシ北、蚊港ヨリ南、安平ニ至ル本島ノ西岸ノ一部及其沖合澎湖水道ノ中央ニ至ル海區

説明 布袋鎮灣ノ本島西岸ニ於テ艦船ノ錨泊ニ稍可ナル唯一ノ地ナルカ上ニ澎湖列島ニ相對シテ航海者ノ最モ注意警戒ヲ要スル所ノ澎湖水道ヲ形造リ且ツ其陸岸ノ著シキ平地ナルガ為メニ三島ト相對シテ共ニ該水道ノ濶ヲ明確ニ標示スルノ必要ヨリ布

袋鎮灣北角外ノワニカシ淺灘へ燈臺ノ急設ヲ要スル海岸海區屬  
シ、其沿岸ノ内陸亦製糖ニ製塩ニ生産ノ頗ル盛ナル地方ニシテ其  
海岸ノ南部ニ各西港アリ且ツ其海岸ノ臺南ニ近キニ據ル

### 第三着手區畫

北、淡水港ヨリ南、蚊港ニ至ル海岸及其距岸五海里乃至十海里ノ海  
面一帯

説明 海岸ニ淡水、大安、土葛窟、各港香山、梧栖、鹿港ノ各小  
舟泊アリ、内部ニ臺中、新竹、大甲等ノ都會アリ其陸地ハ西岸大  
平原ノ大部ヲ占メテ米、煙草、砂糖、藍、甘薯、橙等ノ産出ニ富  
ミ特ニ臺中ノ如キハ其南北ニ河川縣中ヲ縱横ニ貫流シ村落極  
メテ多クシテ諸作物亦其豊ナルガ加フニ其都會ニシテ樟腦産  
地ニ近キ事實ハ土葛窟ヲシテ輸入輸出ニ頗ル緊要ノ地ニラレメ  
居レリ而シテ上述ノ結果其海岸ニ密貿易ノ行ハル、コト常ニ少カラ

ス又基隆ヲ根據トシ淡水、大安ヲ經テ土葛窟へ定期航路ノ開ケ  
 居ルニモ柵ハラス避泊地ニ乏シトハイハ要スルニ水路ノ不明ヨリ常ニ其  
 定期航海ヲ實行シ得サルコト稀ニシテ特ニ土葛窟以南ハ至低ノ  
 海岸ナルガ上ニ附近ノ水深甚ダ不規則ナルヲ以テ水路誌ニ「十尋  
 以内ノ地ニ入ルベカラズ」トノ警戒文字ヲ記載スルノ要アル海岸ニ  
 屬セリ故ニ此區ノ海岸ニシテ早ク精測成リ全區ニ海岸圖各港  
 泊ニ分圖アルニ至ラン乎其海路運輸ノ便ニ於テ商船ニ産業者ニ至  
 大ノ利ヲ與フルハ勿論亦税関吏ノ密貿易ヲ巡邏看守シ其密航  
 船ヲ追捕スルニ大益アラント考定シタルニ據ル

#### 第四着手區畫

淡水ヨリ基隆ヲ經テ蘇澳ニ至ル海岸及距岸十海里ニ至ル海面

説明 中央ニ基隆兩端ニ淡水、蘇澳ノ港湾アリ其頗ル要區  
 ナルハ論ナレト雖上記ノ各區ニ比較スルトキハ其海岸陸高ク水深ク又鼻

頭、富基兩角ニ燈臺アリ且ツ基隆、淡水、蘇澳ノ三港ニハ各既ニ精測ノ港泊圖アリテ目下先ツ其航海碇泊ニハ差向キ不自由ナキノ地タルニ據ル

第五着手區畫

北、安平ヨリ南方南岬ノ東側ニ至ル海岸及其距岸十海里ニ至ル海面

説明 打狗及東港ノ兩港アリ又臺灣最南部ノ根據的要地タル恒春ノ海口ニ位置セル車城ノ前面ニ社寮及琅璫ノ連續セル泊船地アリ且ツ南岬ノ西側ニ艾南ノ灣アリト雖打狗及東港ニハ各既ニ精測ノ港泊圖アリ且ツ東港ノ左右約二十海里ニ亘ル海岸及該海岸ヨリ前面ノ小琉球島ニ至ル海面亦精測ノ既成區ニ屬セリ而シテ社寮及琅璫ノ泊船地未タ產業的泊地ニアラスニテ殆ト糧食運搬的ノ寄泊地タリ且ツ艾南灣亦海水深キニ

過キテ泊船ニ甚ク便ナラス故ニ社寮及琅璫ノ港泊圖ニシテ成ラン乎  
 車城へ寄泊スル定期船ノ為メハ固ヨリ多少ノ便益ハ與フヘキモ  
 蓋シ此區タル深水少陸ノ海岸ニ屬スレハ目下先ツ其沿岸航海ヲ為ス  
 丈ニハ敢テ差支ナキヨシ歟見ユ故ニ此區航海ノ為メハ測日里ノ速成ス  
 ルヨリモ寧口車城ノ地角(社寮灣ト琅璫灣トノ間ナル地角)若クハ頭  
 溝ノ地角へ燈臺ヲ建設スル方實際ニハ其利益恐ク多カラント思  
 考シタルニ據ル

第六着手區畫

即チ最後ノ着手區畫

南、南岬ヨリ北、蘇澳ニ至ル海岸及其沿岸水深ノ百尋ニ至ル海面並  
 ニ紅頭嶼及火燒嶼ノ全沿岸且ツ其本島間ノ航路ニ當ル海面

説明 卑南ニ其臺東廳ノ設置、守備隊ノ配置アリ且ツ其全

沿岸未タ其形状等審確ナラズト雖要スルニ其全區ノ未開地

ニ屬シテ船ヲ寄スルキ地ノ皆無ナル事實ハ軍事上ニ産業上ニ

其沿岸水路ノ明確ヲ要スルコト比較的ニ西岸程切ナラス且日本職  
 今回ノ實驗ト從來ノ實驗報道トニ因テ想察スルニ此沿海ノ全体  
 ニ海水甚ク深クシテ隠險ノ恐レ少ク各處至近ノ岸際即チ僅ニ船  
 隻ノ全長ヲ距ル處ト雖尚深キト過キテ投錨ニ苦シクノ現状ナリ  
 ヲ以テ即チ錨泊ニハ至難ナルモ離レテ沿航スルニハ寧ク口安全ナル  
 海岸ナリト謂ハサルヲ得ズ依テ此區々ハ將來ハ兎モ角現今ラニ  
 於テハ假令其測日量ニシテ速成ストモ其効利ヲ見ルコトハ決シテ  
 他ノ各區程ニ大ナラスト信スルニ據ル

### 紅頭嶼

南岬ヲ距ル東約三十五海里ニ在リ周回約二十海里面積約五方  
 里ノ一孤島ニシテ南岸及北岸ニ各假泊地アリ(先ニ矢代灣福井灣  
 ト命名セシモノコレナリ)陸上ニ六部落アリ其人口約二千土人性頗ル柔  
 順ニシテ情ナラス常ニ農作捕魚ニ從事シ將來大ニ望ミアル島ナルカ

如レ然レトモ今回船ヲ泊セシメタル福井湾ノ如キハ水深キニ過キテ底ニ  
 岩質ノ處多ク且ツ錨泊ニ流潮ノ影響ヲ受クルコト甚ガ強キヲ覺  
 ヘタリ又該島ハ其位置颶風ノ襲吹地ニ近キガ為メ襲吹毎ニ大抵其  
 經過ヲ免カレズ故ニ時間ハ極メテ短キモ力ノ極メテ強キ颶風ニ遭遇スル  
 コト頗ル多クナリト云フ依テ此颶風經過ノ一事ハ自今航海上ニハ  
 勿論産業ノ奨励上ニハ第一ニ注意セサルヘカラサルコト、考フ要ス  
 ニ軍事上及交通上ニ於テ航海錨泊ノ要ヲ感スルコト切ナラサルノ地ト  
 信ス是六區中ハ包含セシメタル所以ナリ

### 火燒嶼

奥南ヲ距ル東微南約二十海里ニ在リ周回五海里ニ滿タサル一小  
 嶼ニ過キスト雖北岸及南岸ニ各荒天ニ際シ船舶ヲ錨泊セシム  
 ルニ足ルノ錨地アリ既ニ我大阪商船會社ノ汽船ニシテ本島東岸  
 ノ航海ニ從事スル者ハ時々茲ニ避泊セシト聞ク故ニ奥南ニ寄泊ヲ



要スル船舶ノ為メハ實ニ無ニノ好避泊地タルガ又該嶼ニハ漁民多クシテ對岸ノ本嶋部落殊ニ卑南ヘ頻リニ交通シ居ルガ故ニ本島東岸ノ航海及本島トノ交通上ニ於テハ紅頭嶼ヨリモ積ハ小ナルモ其要ハ寧口切ナリ依テ第六區ニ包含スト雖該區ニ測量ノ時ハ第一ニ着手シテ其避泊地及卑南トノ航路ヲ明ニスルヲ利ナリト信ス。

### 燈臺ノ急設ヲ要スル事

上陳ノ如ク甚臺灣及澎湖島ノ沿岸ニハ我精測ヲ經タルノ地尚甚カ少モ要スルニ既ニ圖誌アリテ不完全ナカラ目下通常航海ノ急ヲ救ヒ得ルハ事實ナリ而シテ測量ノ全部完成ハ到底少数ノ年限ニ望ミ難ク尚十數年ノ歲月ヲ要スヘキカ故ニ目下航海上ノ為メニハ測量ノ急成ヲ望ムヨリモ須要ノ各地点ヘ燈臺ヲ急設シ且ツ既知ノ險礁ヘ立標又ハ浮標ヲ急設セハ實際其利益頗ル大ナルヲ疑フ容ルヘキナク又測量施設上ニモ非常ノ便ヲ與フヘシ而シテ此建設ハ測量ヨリ

モ寧口行ヒ易キコトニ屬ス依テ自今ハ畏キニ北海道廳ニ於テ計畫  
 實行シタル如ク臺灣總督府ニ於テ外洋燈塔燈ヲ併セ少クモ年  
 々三個ツ設置ノ計畫實行アラント切ニ希望ス即チ其參考ニ  
 供セン為メ本職ニ於テ認メタル所ノ該地名、位置、緩急順序及燈  
 火ノ等級種類等ヲ左ニ表示ス

但其各地点ハ圖上ニ朱色ノ星符ヲ点ジ置ケリ

地名	位置	緩急順序	燈火ノ等級種類	附要スル装置
北島	澎湖列島ノ最北端 <small>蘇澳灣ノ北角</small>	既ニ設置ノ計 畫アリテ見 テ置ケリ 全上ニ月畧ス	全上ニ月畧ス	
北角	澎湖列島ノ最北東端	全	全	
三島	澎湖列島ノ北角外面 布袋鎮灣ノ北角外面	一 三等不動白色 <small>九呎燈及クルーバー燈紅色ニテ照射セリ且該兩 燈各立標若クハ浮標ノ裝置ヲ要ス</small>	一 三等不動白色	
ワシカン堆	基隆港口ノ北東約三八 海里	二 一等回轉燈 <small>若シ該堆ニ設置シ難キ基隆岸ニ連ハ乾出堆ノ最西端 ニ建設シテワシカン堆ハ其南北外面ニ兩端ニ浮標ノ設置ヲ要ス</small>	二 一等不動白色	
棉花嶼	基隆港口ノ西南西約三海里	三 一等不動白色	三 一等不動白色	
白沙岬	淡水港口ノ西南西約三海里	四 三等不動白色	四 三等不動白色	

火燒嶼	該嶼ノ西岬角	五	二等不動白色
西角	安平ノ北西約十二海里	六	四等不動白色
以上外洋燈	備考 棉花嶼燈台ハ基隆長時間ノ直航ヲ取テ必要ナシ夜標ニシテ目下既ニ該定期航海船切ニ其新設ヲ望ミ居ル モソコ係ル其利益ハ既設ノ鼻頭角燈台ヨリモ大ナルコトヲ疑ハス		
基隆	該港門ノ西角		全上ニ付畧ス
馬公	測天島ノ北角	一	紅色竿燈
車城	社寮灣ノ南角ニシテ又瓊橋ノ北角ニ當ルキ地点	二	五等不動白色
土葛窟	該河口	三	紅色竿燈
大安	該河口	四	全
東港	該河口	五	全
卑南	該村落ノ前岸	六	全
鹿港	該河口	七	全
香山港	該沙嘴端	八	全
各西港	該港口	九	全

花蓮港

錨地ノ北角

一〇五

以上港燈

其灣及澎湖島ノ測量ノ到底測量艇ノミニテ

施シ難キコト即チ測量艦又ハ測量船ノ必要

目下該地ノ測量ニ派遣スヘキ適當ノ艦船ノ多カラサル折柄地方

ニ依リテハ測量艇ノミニテ其測量ヲ施スヘキ手段モアラシカト實地

視察スル所ニ照ラシ種々考案ヲ盡シタレトモ

第一 測量負及傭船夫ノ食料ノ測地ニ於テ得難キ事

第二 無山低陸ノ多キ結果巨大ナル設標ヲ要シ隨フテ其標材

ニ巨大多數ノ木材ヲ要スルニ其購買且ツ運搬配付ノ測量

艇ニテ為スヘカラサル事

第三 測標ハ假令之ヲ大形ニ為スモ其大小ニハ自カラ制限アリ故

ニ其低陸ノ結果ハ距岸遠キ測量艇中ヨリ之ヲ認ムルコトニ

難ク為メニ距岸約三海里以外ニ在ツテハ測量艇ニテハ到底  
 鐘測ノ實行ニ難キ事

第四 近時北部ノ土匪ハ大抵歸順スト聞ケトモ尚北部外ニ於  
 テハ土匪又ハ猛蕃來襲ノ危険免カレ難クシテ之ヲ防クニ  
 護衛ヲ要スル事

此四事ハ到底測量艇ノミニテ測量スルコトヲ許サス即チ測量  
 艦又ハ測量船ハ殊ニ該地方ノ測量ニ到底缺クヘカラサルモノト確信  
 候ニ付特ニ此項ヲ設ケテ茲ニ之ヲ辨明ス

左ノ所見ハ職務外ニ屬スル事項ナレトモ亦水路ニ関スル所見ニ外  
 ナラスシテ上述職務上ノ意見ト同シク今回ノ實地視察ニ得タ  
 ルモノナルヲ以テ茲ニ附載ス

基隆、淡水、打狗三港ノ築港ニ関スル所見

## 第一基隆港ノ所見

既ニ該築港委員ノ設計ヲリ其轉進三次ノ各設計圖ヲ一覽セ  
 レニ其考案ノ合理ナル用意匠ノ周到斬新ナル第三次即チ  
 最後ノ設計ヲ以テ最モ成功ノ期スヘク且ツ効用ノ大ナルヘキモト信  
 ス乃チ其設計ニ於テハ敢テ喙ヲ容ルヘキナレト雖モ抑モ此地タルヤ  
 我カ國防西南門ノ根據地ニシテ又台北ノ北門ニ當リ軍事上實  
 ニ該島唯一ノ要地ナルカ故ニ今國防的ニ觀察ヲ下シ此地ニ築港セ  
 レトスルニハ固ヨリ軍港ニ重キヲ置カサルベカラスサレハ該島ニ天然ノ  
 港灣缺乏ノ結果ハ勢商港ヲ此ニ求メサルヲ得サルモ軍事ノ関  
 係上唯其外部ヲ利用スルノ外ナク而シテ此外部ノミヲ以テ將  
 來ニ台灣全島ノ物品集散港タラシムヘキ事ハ到底之ヲ胡望ムヘカ  
 ラス然ラハ則チ台灣最要ノ商港ハ該島將來ノ為メニ慮リテ之ヲ  
 他ニ求ムルノ勝レルニ若カサルナリ而シテ愚見ヲ以テスレハ淡水ノ如キ

ハ其築港ノ上商港トシテ便益アルコト地位ノ利ニ水運ノ便ニ遠ク基隆ニ優ルヘキノ地タリト信ス要スルニ基隆及淡水ヲ築港シテ之ヲ各其長所ニ利用スルノ策ハ前者ヲ軍港ニ後者ヲ商港ニ專用スルニ在テ存ス其淡水ヲ築港シテ益高港ニ利アルヘキ所以ハ次項即チ淡水ノ所見ニ之ヲ陳述セン

## 第二淡水港ノ所見

歐米港灣論者ノ言ニ曰ク一國ガ深水ノ港灣ニ富ムル其國富強ノ一大源ナリ而カモ其港灣ニシテ水運ノ便アル河道ノ口ニマラニハ殊ニ然リ是其國內部ノ貿易品ガ其港灣ニ集合スルニ便ナルヲ以テナリト今此言ニ照シ將來長ク台湾ニ商港タルヘキ地ヲ相スルニ其地ハ即チ淡水ニ在リト信ス何トナレハ第一ニ先ツ該港ニ注ギ來ル所ノ淡水河ハ大姑陷河及其基隆河ヲ兩支トシ本支ト共ニ水運ノ便ニ富ムコト台湾第一ノ河流ナルガ上ニ該島商業ノ中心都府タ

此其臺北ノ大市其本流ノ河岸ニ臨ミ之ト相距ル水路僅ニ八里ニ過キス  
 之テ殊ニ此間ノ水運ニ一層ノ便利ヲ有シ其地亦業已ニ該四開港  
 場總關稅額ノ過半ヲ收ルル貿易港ナレハナリ故ニ淡水ニシテ其港  
 積ニ水深ニ大船舶ヲ容シ、ニ足ルノ繫泊地タラシ乎該本支河道  
 ノ各沿岸地ニ益產業ノ發達スルハ勿論其河岸各地トノ交通  
 ヲシテ愈便利ナラシメ其結果製茶其他輸出品ノ増加ヲ促シテ該  
 島ノ富源ヲ開發スルコト期シテ待ツヘク其利益ノ將來ニ大ナル殆  
 ト意料ノ外ニ出ワルモノアラシサレハ淡水ノ築港ハ假令失フ所大ナ  
 ルモ其得ル所之ヲ償フテ餘リアルヘク而シテ其設計モ亦地質  
 潮流等即チ避クヘカラサル天然ノ障礙ノアラサル限りハ全然一個ノ  
 理想的設計ニ過キスト雖別紙圖面ノ如ク該河道ノ口ニ近キ部  
 分ノ中央へ埋地ヲ造リ南岸ヲ削去修築シ其河床ヲ浚ヘテ河  
 水ヲ埋地ノ南側へ落シ以テ埋地ノ北岸ト河ノ北岸トノ間ヲ低

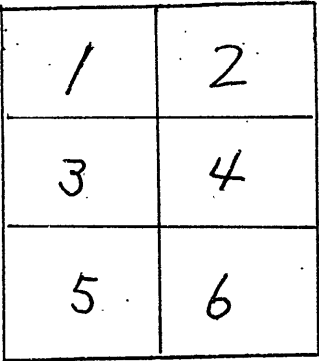


潮面下三十尺、深サニ浚深シテ其兩岸ヲ繫船壁ト爲シ尚埋  
 地ノ東端ト其對岸トノ間へ同水深ノ繫船渠ヲ設ケテ埋地ノ西端及  
 其對岸ヨリ沖面ニ向ヒ低潮水深三十尺ノ處迄平行ノ両突堤ヲ出シ  
 其突堤間ヲ同シク低潮面下三十尺ノ水深ト爲サシハ現今ラ世  
 ニ在ル所ノ船舶ナラムニハ如何ナルモノト雖モ自由ニ出入セシメ得  
 テ優ニ百万噸ノ貨物ヲ吐吞スヘキ所謂文明的港トナスコト敢テ難  
 カラスト信ス而シテ殊ニ該島ニ於テハ此他ニハ天然ノ港灣ハ固ヨリ  
 築港調査ヲ試ムヘキ一個ノ場處々ニ尚見出し能ハス故ニ此地ノ  
 築港ハ慎重ニ熱心ニ企圖ノ精神ヲ持シ僅ニ一二議者ノ爲メ  
 左右セラレテ之ヲ放棄スルカ如キコトナク飽ク迄潮流ニ地質ニ其  
 試験調査ヲ十分ニ行ヒ之ト同時ニ廣ク専門家ノ意見ヲ徴シ  
 該島將來ノ爲メニ大計ヲ定メラレンコトヲ切ニ希望ス

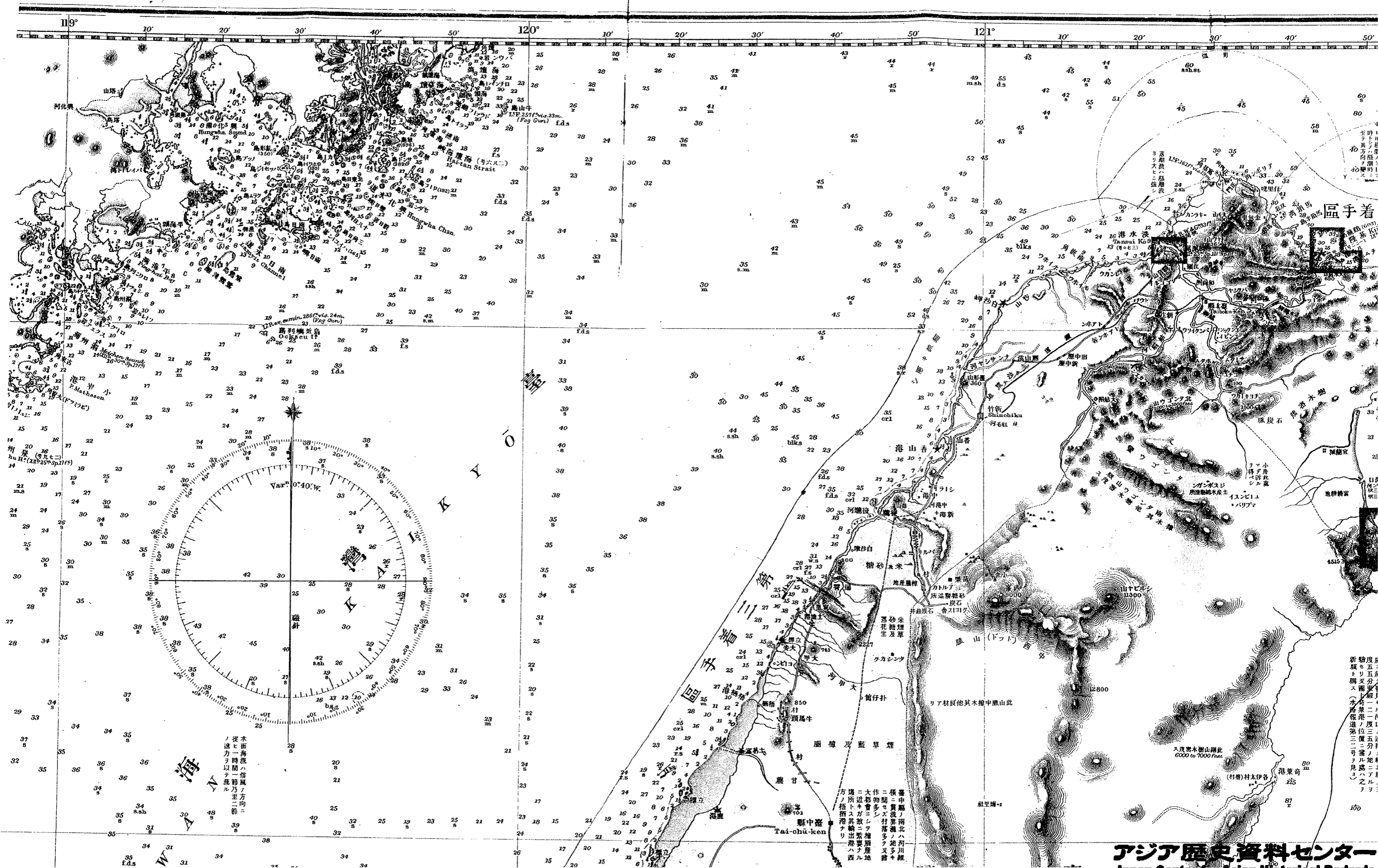
### 第三 打狗港ノ所見

此地ノ築港タル之ヲ要スルニ往時佛國ガシエルブル軍港ヲ築キタ  
 タルノ大奮發ヲ以テ臨マンニハ何ナル設計カ敢テ成ラサルコトナカルヘキ  
 モ我邦未タ此港ニ對シ佛國ガシエルブルヲ築港シタルガ如キ奮發ヲ  
 要スルノ急務ヲ認メヌ又此地ニ収支ノ相償フヘキ尋常ノ手段ヲ以テ築  
 港ノ設計ヲ立ツルコトハ到底望ムヘカラサルカ如シ為メニ此港ニ對シテハ  
 未タ其愚見ヲ定ムルヲ得ヌ

# 分割撮影ターゲット

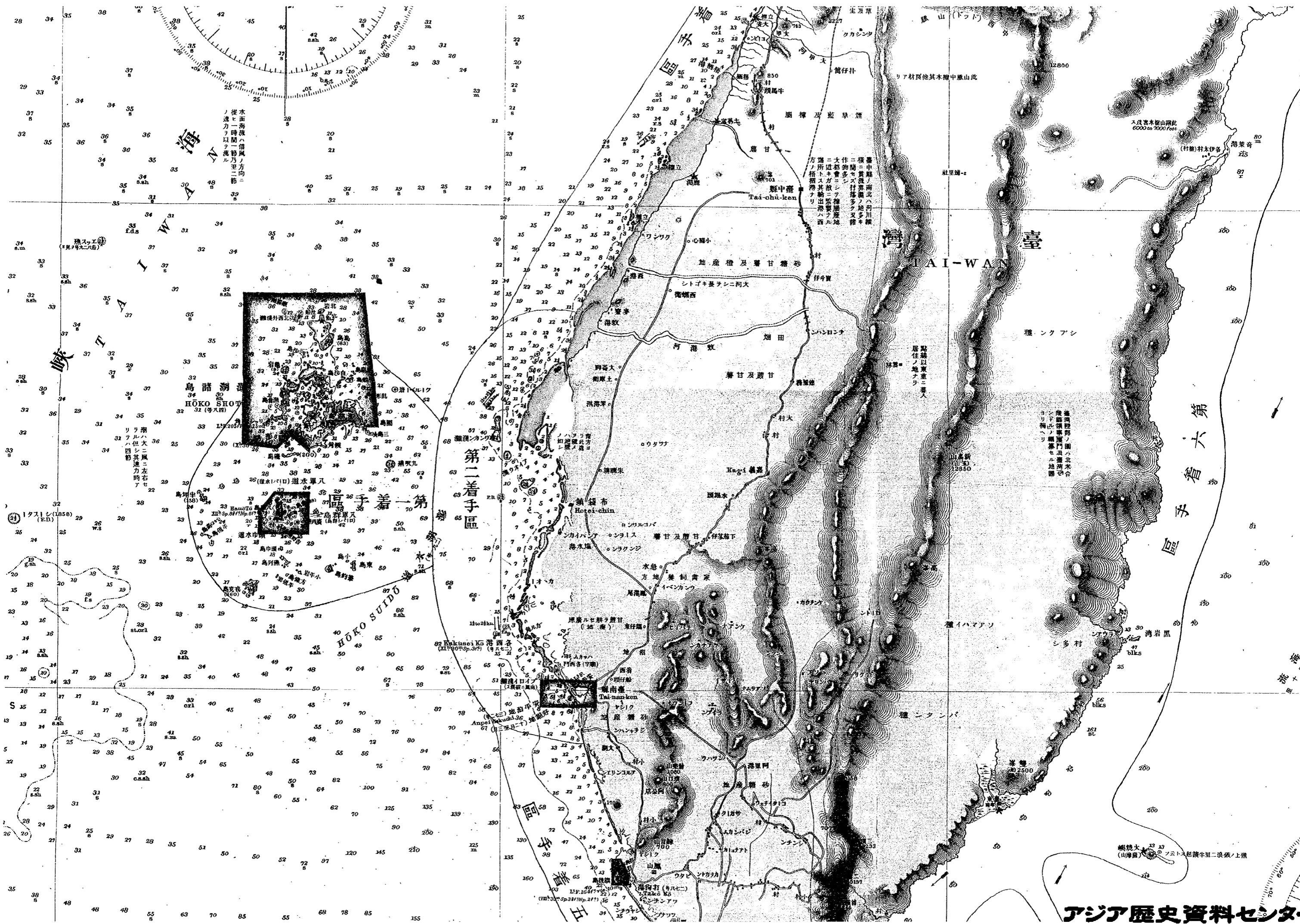
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0123 0125 0127  
0124 0126 0128









水面海流ハ信風ノ方向ニ  
 従ヒ一時間一節乃至二節  
 ノ速力ヲ以テ流ル

湖ハ大ニ風ニ左右セ  
 リラハ四節ノ速力時ア  
 リ

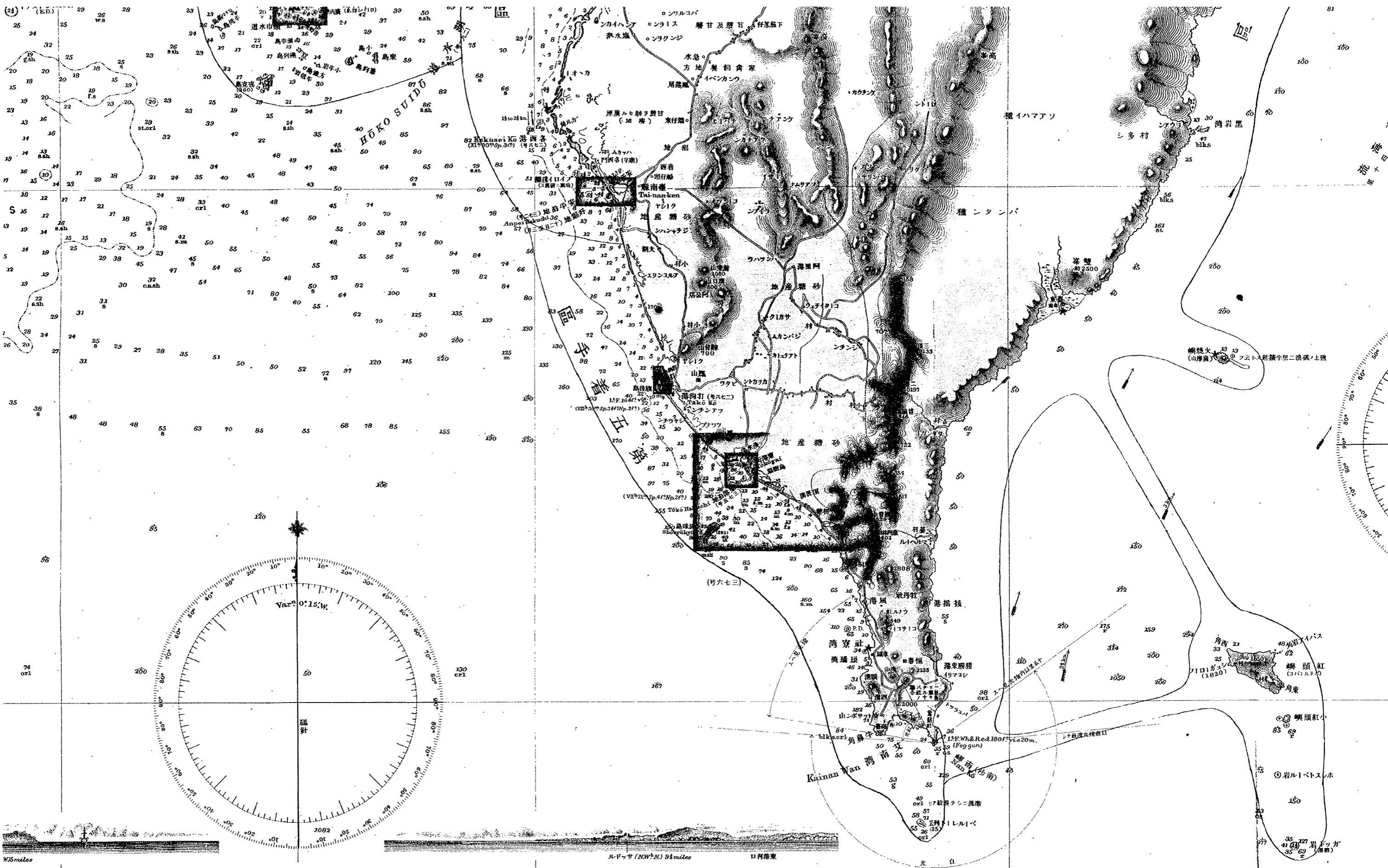
島諸湖  
 HOKO SHOTO  
 HOKO SUIDO

臺中縣  
 Tai-chū-ken

第一着手區

第二着手區

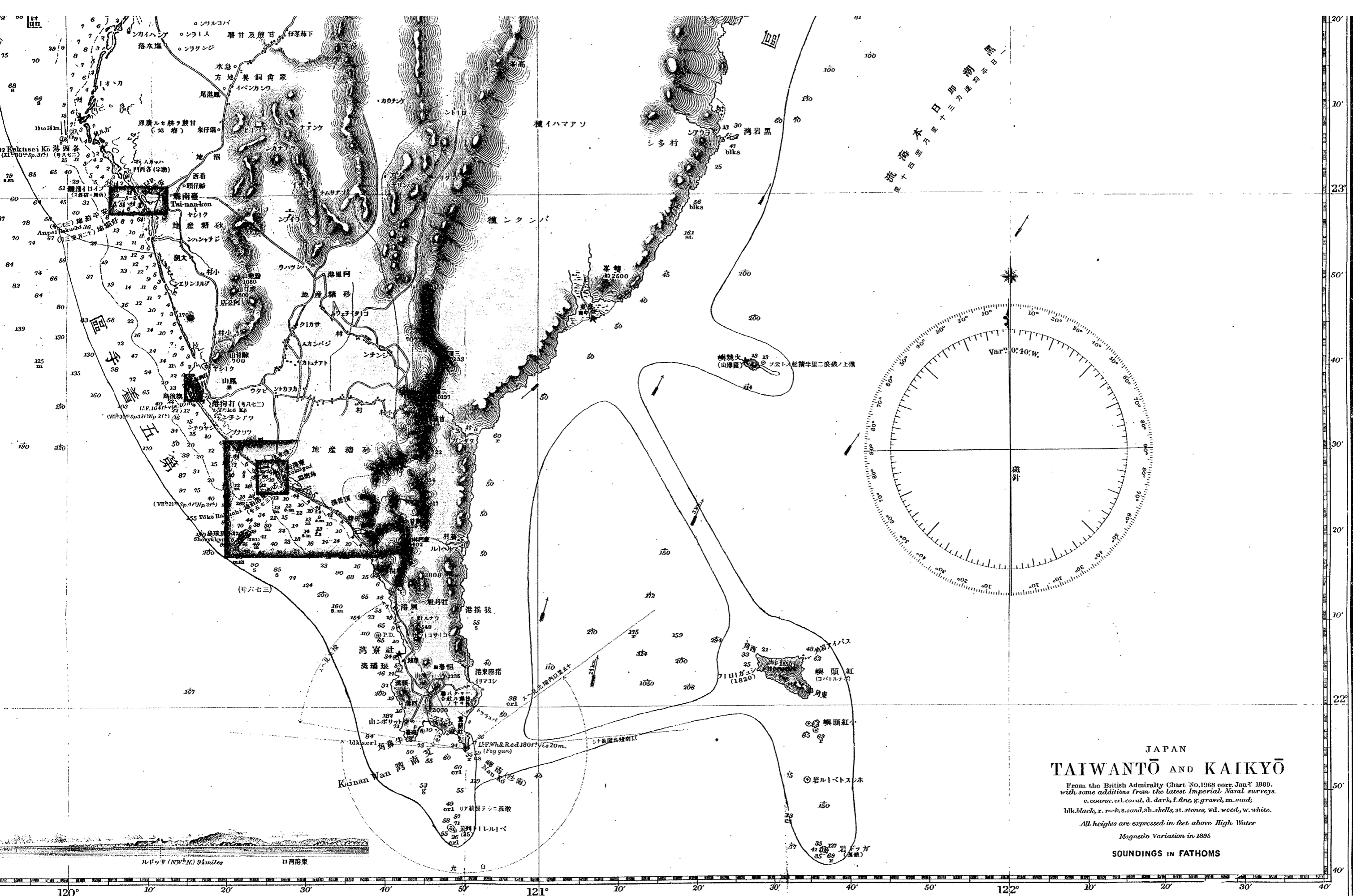




ing 114° 10' 48" 119° (ク基ニ秒八四分〇一厘四一經東角トルベル港香) 經東威線 30' 40' 50' 120° 10' 20' 30' 40' 50' 121° 10' 20' 30' 40'

ear of Meiji, (1897) under the Superintendence of Capt. K. Kimotski, I. N. Hydrographer.





JAPAN  
**TAIWANTŌ AND KAIKYŌ**

From the British Admiralty Chart No. 1968 corr. Jan'y 1889.  
 with some additions from the latest Imperial Naval surveys.  
 a. coarse, orl. coral, d. dark, f. fine, g. gravel, m. mud,  
 blk. black, r. rocks, s. sand, sh. shells, st. stones, wd. weed, w. white.

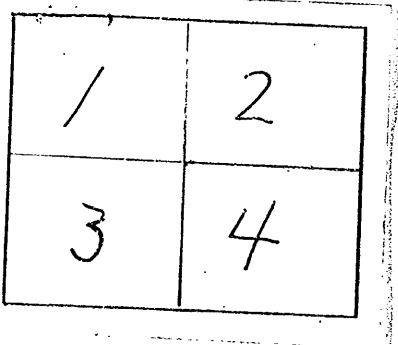
All heights are expressed in feet above High Water  
 Magnetic Variation in 1895

SOUNDINGS IN FATHOMS

社合式株船本日 地海一日一町業有國町港市京東 所管版 部海水 行登刷印日十月二十年十三治明

N° 267

# 分割撮影ターゲット

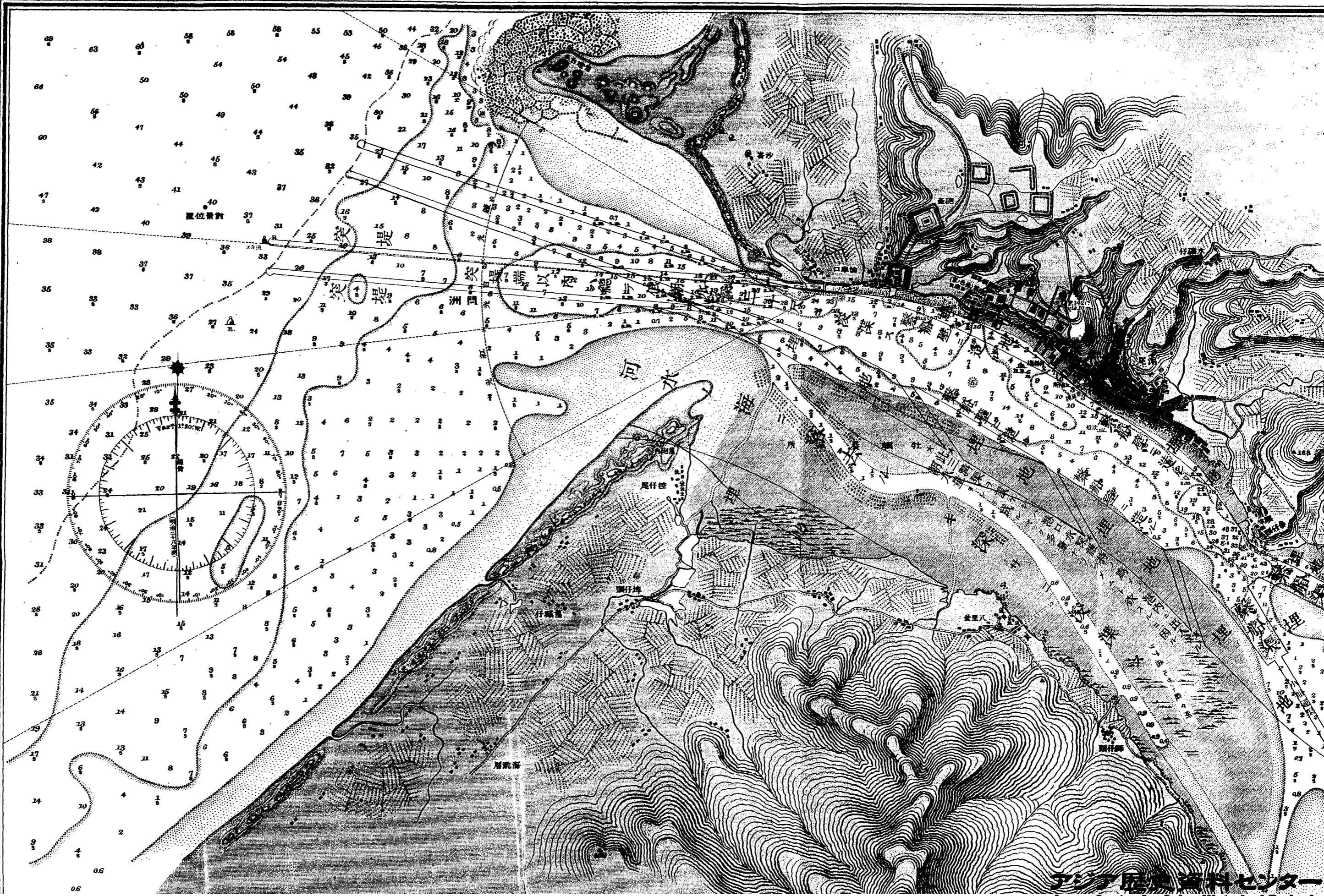
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0129  
0130  
0131  
0132

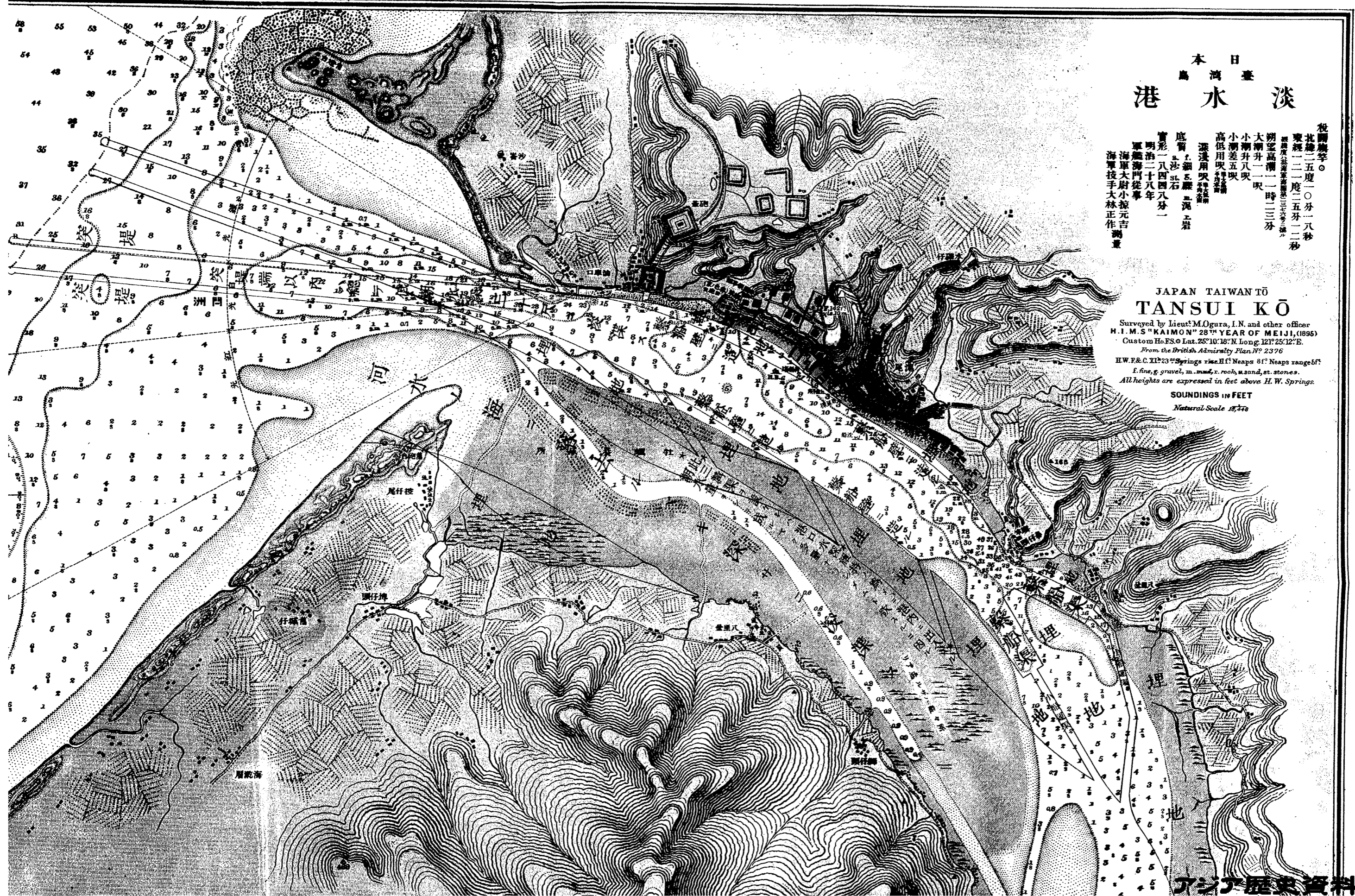
築港ニ関スル所見ニ附スベキ圖面

藍色ノ如クナストキハ淺深ノ積ヲ稍増スヘキモ亦突堤ノ長サヲ稍縮ムルヲ以テ甚シ工費ニ損益ハナカルヘシ  
而シテ港内ノ濶ヲ廣ムルカ故ニ船隻操縦上ノ便利ヲ大ニ増サシムルニ併シテ備考トナス

明治二十九年六月三日水路部ニ於テ刊行ス 水路部







日本  
臺灣  
淡水港

稅關總字  
北緯二五度一〇分一八秒  
東經一二度二五分一二秒  
明神宗一八四八年  
海軍大尉小松元吉測量  
海軍技手大林正作

JAPAN TAIWAN TŌ  
TANSUI KŌ

Surveyed by Lieut. M. Ogura, I.N. and other officer  
H. I. M. S. "KAIMON" 28<sup>th</sup> YEAR OF MEIJI, (1895)  
Custom Ho.F.S. Lat. 25° 10' 18" N. Long. 121° 25' 12" E.  
From the British Admiralty Plan. No. 2376  
H.W.F. & C. XI. 23<sup>rd</sup> Springs rise. II. Neaps 8f. Neaps range 5f.  
f. fine, g. gravel, m. mud, r. rock, s. sand, st. stones.  
All heights are expressed in feet above H. W. Springs.

SOUNDINGS IN FEET  
Natural Scale 1:10,000



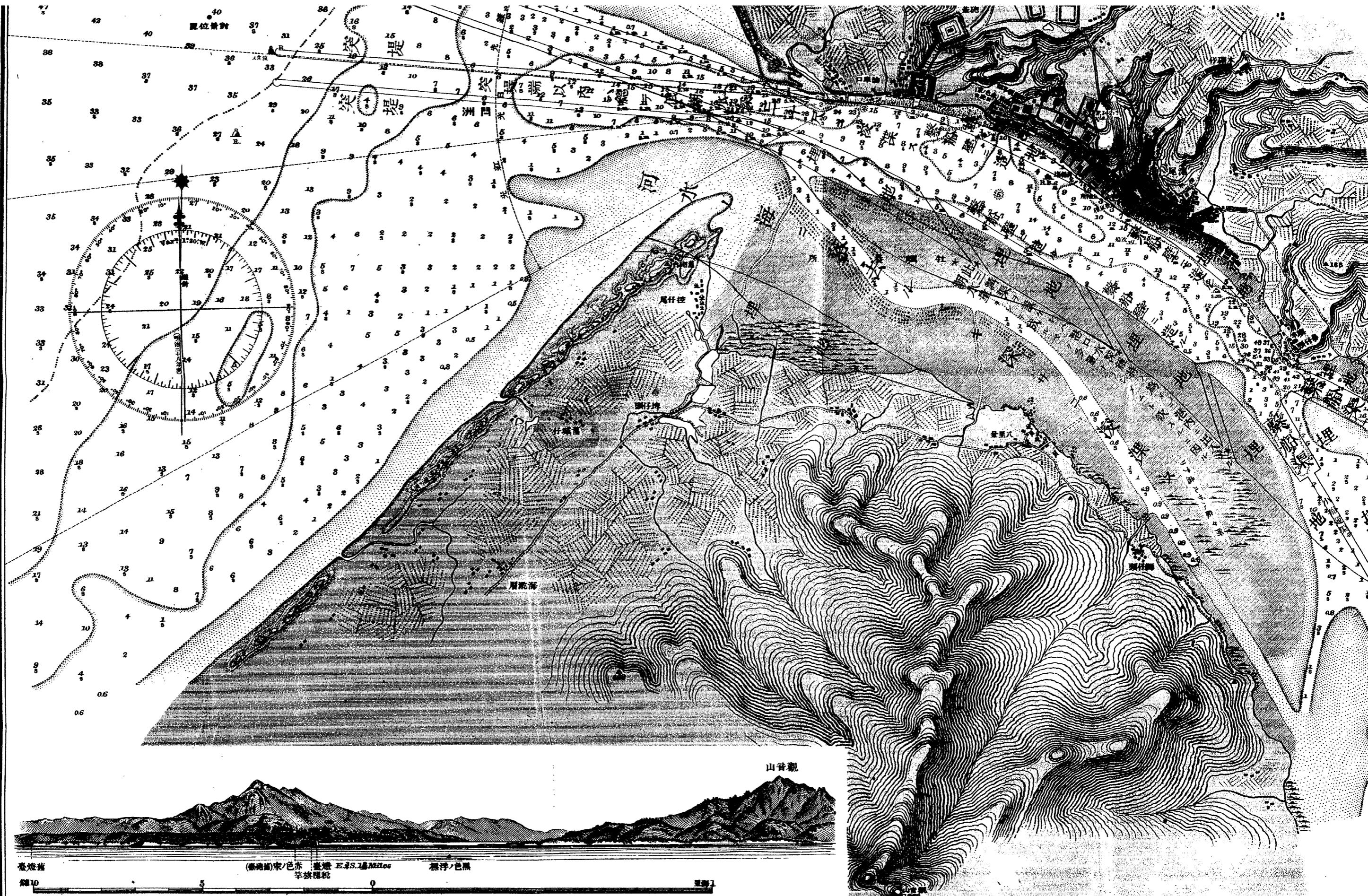
ハ浚渫ノ積ヲ稍増スヘキモ亦突堤ノ長サヲ稍縮ムルヲ以テ甚シク工費ニ損益ハナカレヘシ  
 此ノ力故ニ知集提擬上ノ便利ヲ大ニ増サシムルヲ併畫ニテ備考トナス

附スバキ圖面

明治二十九年六月三日水路部ニ於テ刊行ス

水路部長肝付兼行

第三百七十號



VI. 97. VI. 38 VI. 98

Tokyo...Published at the Hydrographic office, 3<sup>rd</sup> June 29<sup>th</sup> Year of Meiji, (1896) under the Superintendence of Capt. K. Kimotski, I. N. Hydrographer.

社會式株郵本日本 地畫一日一町開拓司總事東京 所賣販 部設

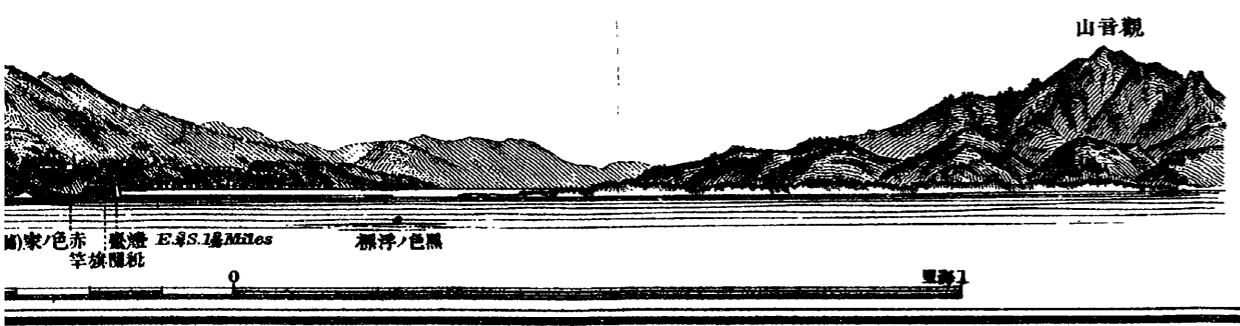
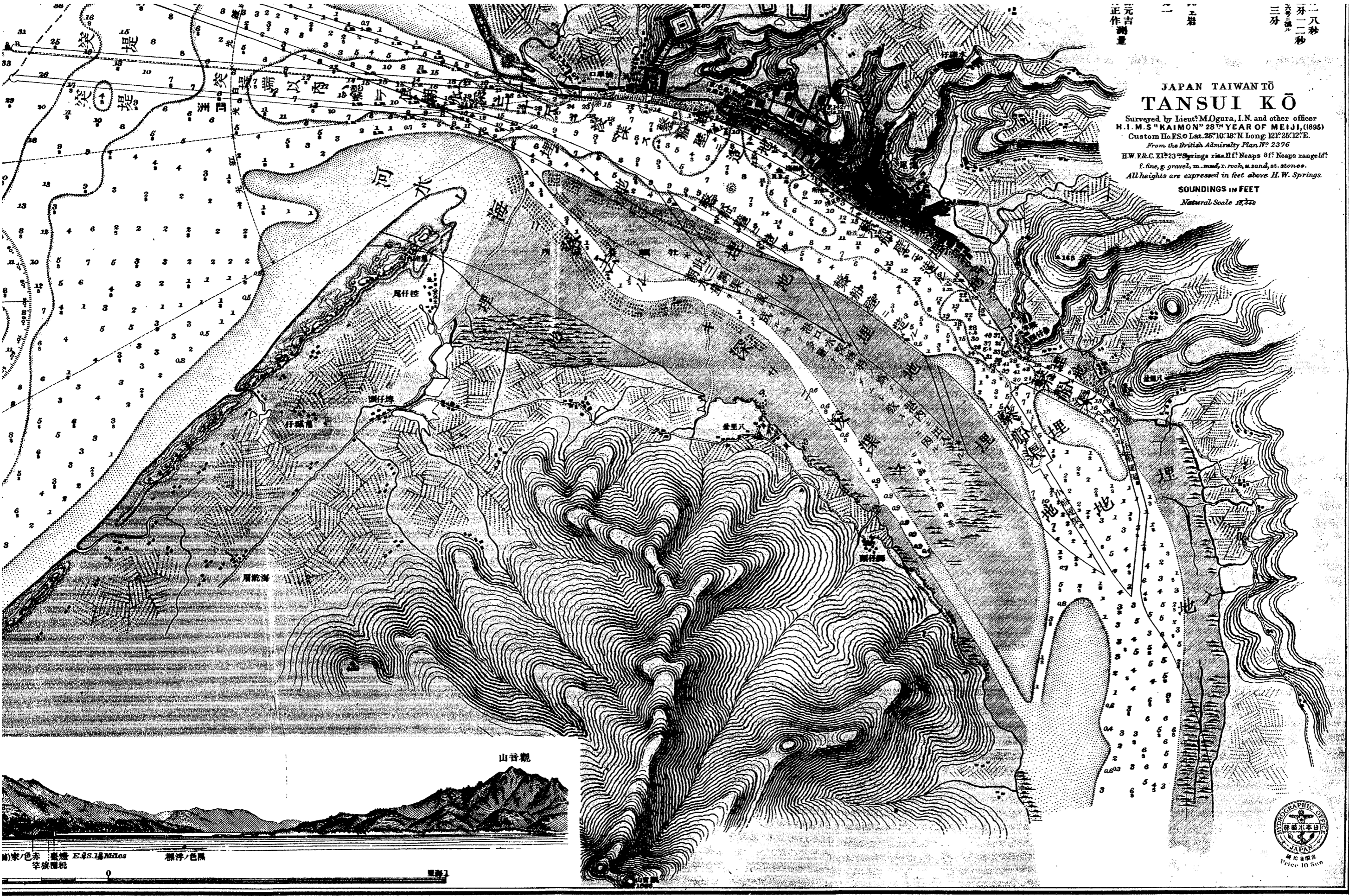


正元吉  
作測量  
二上岩  
三分  
八秒  
二八秒

JAPAN TAIWANTŌ  
**TANSUI KŌ**

Surveyed by Lieut. M. Ogura, I. N. and other officer  
H. I. M. S. "KAIMON" 28<sup>th</sup> YEAR OF MEIJI, (1895)  
Custom Ho. F. S. Lat. 26°10'18" N. Long. 121°25'12" E.  
From the British Admiralty Plan No. 2376  
H. W. F. & C. XI<sup>th</sup> Springs rise H. F. Neaps 8 ft Neaps range 5 ft  
f. fine, g. gravel, m. mud, r. rock, s. sand, st. stones.  
All heights are expressed in feet above H. W. Springs.

SOUNDINGS IN FEET  
Natural Scale 1/370



Tokyo..Published at the Hydrographic office, 3<sup>rd</sup> June 29<sup>th</sup> Year of Meiji, (1896) under the Superintendence of Capt. K. Kimotski, I. N. Hydrographer.

社會式鉄船本日本 地書一日一町樂有國町總事東京 所賣販 部器水 行發刷印日五十月六年九十二治明

No. 370

0133

雜  
款

四一五

東洋海軍公團社所有海軍公口七〇夕號長官

案

母直

主事

三十二年五月一日起案

發付△

五月二日

大臣 次官



軍務局長



軍事課長



主任課長





一、若、倭、若、の、甲、王、島、之、鋒、影、尾、島、間、  
 航、路、に、於、て、海、底、障、碍、物、之、衝、突、云、々、致、す、に、至、  
 急、事、地、之、間、才、甲、島、中、之、五、四、九、年、以、て、  
 西、信、等、船、者、若、大、々、出、海、す、る、も、水、路、部、刊、行、  
 一、日、一、年、海、置、(長、崎、港)、迄、之、同、所、善、道、航、路、  
 三、回、等、障、碍、物、之、衝、突、七、年、三、三、三、三、三、三、  
 衝、突、セ、シ、場、所、ハ、果、々、九、ノ、可、ノ、方、面、同、有、  
 漢、之、品、や、粟、類、ヲ、得、之、の、も、實、地、取、調、上、  
 或、ハ、該、船、之、善、道、航、路、ヲ、取、リ、  
 此、方、向、實、際、航、路、ハ、（長、崎、港）、  
 之、如、ク、事、者、一、度、及、び、直、接、  
 西、信、三、十、三、年、三、月、二、日、  
 長、崎、港、の、航、路、事、不、  
 以、友

三注 四一

四一五

母

甲房方一五四九號

海底障礙物件ニ付申

本月十六日夜東洋汽船會社所有汽船ロセツタ  
 郡當長崎へ入港ノ際港外伊王島高嶺影  
 尾島間ノ航路ニ於テ海底障礙物ニ衝突シテ  
 大ニ不尠損傷ヲ蒙リ候趣ヲ以テ別紙ノ通リ  
 英國領事ヲ照會有之候處同所ノ取本港  
 出入内外船舶ノ航路ニ當リ頗ル危険場所  
 上被存候ニ付至急實地申取調相成候様  
 致度此旨申仕候也

明治三十一年十月廿二日

長崎縣知事小松原英太郎

母

母



Copy

British Consulate  
Kagasaki  
November 21. 1898.

Sir.

I have the honour to inform you that when the Peninsular and Oriental Steamship "Rosetta" was approaching Kagasaki Harbour, on the night of the 10th Inst. she struck on some submerged obstruction, not marked on any chart. which is stated to lie right in the fairway between Iwosima, Takaboko and Kageno-shima, suffering thereby some serious damage.

On ascertaining the particulars, on the 18<sup>th</sup> inst I at once caused the harbour master to be informed of the occurrence and suggested that he should have the spot examined. While however, thanking me, for the information. He replied that the locality is outside his jurisdiction and that he could therefore do nothing as the obstruction, if it has any real existence, constitutes a serious danger to navigation which it is advisable

0138

advisable should be notified to mariners at once and as there is no Japanese men of war at this moment in port by which it can be surveyed, Captain Clark of her Majesty's ship "Indaunted" has, at my request, this morning sent out a boat to make a temporary examination of it a course to which, under the urgent circumstances, you will I trust, have no objection. I shall inform you of the result of his examination without delay and it will perhaps be sufficient to enable you to form a decision as to whether any further survey may then be necessary or not.

I have the honour to be,

Sir

(Sign) <sup>de</sup> Joseph Hongford <sup>de</sup>  
14. B. vis Consul.